

<シンポジウム (3)—12—4>東日本大震災：あれから一年

東日本大震災 宮城県（石巻市）民間病院の一年

齋藤 仁一

(臨床神経 2012;52:1343-1344)

Key words : 東日本大震災, 民間病院

私どもの仁明会グループは、宮城県石巻市の中心に位置し、齋藤病院 (172 床) を中心に、恵愛病院 (精神科)、2 つの老人保健施設、4 つの特別養護老人ホーム、在宅サービスなどを持っている。そのうち齋藤病院の同一敷地内には、老人保健施設 (150 床) 特別養護老人ホーム (60 床) などがある。

H23 年 3 月 11 日の東日本大震災により、病院に大きな被害はなかったが、ライフラインが停止し、その後病院の周囲 100 m 近くまで津波が押し寄せて来た。災害用無線などの通信や交通も寸断され、当院は陸の孤島となった。情報は携帯ラジオのみであった。

震災直後から病院外来待合室には、外来患者、見舞客、そして避難する近所の住民などで 100 人位にふくれあがった。医師はじめ職員は、来院する救急患者の対応に追われた。残念ながら DMAT などの医療支援も届かず、何とか外部と連絡を取ろうとしても、周囲が冠水しておりできなかった。

その後、ご遺体も多く運び込まれ、津波による被害が甚大であることがわかった。病室も満床となり、外来待合室に臨時のベッドを作り、救急患者の治療にあたった。一方、現在の窮状を水の中を歩いて行政などにも何度か訴えたが、とりあてられなかった。

震災 4 日目の朝を迎え、医薬品や食料まで底を尽き始めた

厳しい状況下で診療を続けていくべきか、緊急会議を開き、各医師や幹部職員の意見を聞いた。

結果は「地域の人々のために診療を続けましょう」が全員の意見であった。

周囲の水が引けてきたので、震災当日より診療を続けられた非常勤の医師が、東北大学にもどることができ、当院の緊迫している状況を報告していただいた。

その後、東北大学病院より医師派遣と物資の供給を続けていただいた。また、徐々にライフラインも改善し水、食料、医薬品なども供給され始めた。

このような東日本大震災を経験したが、その時来院した患者の特徴を示す (H23 年 3 月 11 日～H23 年 4 月 10 日)。

入院の疾患は、肺炎 (43%) 脳卒中 (11%) が多く、肺炎は津波と関連するものではなく、一般的な肺炎であった。

外来の疾患は、高血圧症 (45%) 風邪 (11%) が多く、投薬を希望されたりする軽症の患者がほとんどであった。

現在患者は、急性期疾患のみ注目されているが、今回の大震災に遭遇し、要支援以上の災害弱者といわれている方にアンケート調査をおこなった (H23 年 10 月～H23 年 11 月)。回答者 274 名。

その結果 (1) 避難所などで生活されている方より、明らか

Table 1

現状	問題点	対策
1. 宮城県災害医療体制 災害拠点病院を中心とした体制	拠点病院以外の医療機関がなおざり。 →生き残った医療資源を生かす。	民間病院をふくめたネットワークの構築
2. 情報収集体制 一般回線・MCA 無線・衛星携帯	すべて繋がらず。→通信手段をどうするか。	衛星携帯を各医療機関で購入が望ましいが、大災害時には行政が貸与する。
3. 医薬品の供給体制 医療機関 (注文) →卸売業者→医療機関 (受領)	卸売業者も被災 医療機関→卸売業者→医療機関 ×	医療機関→メーカー→医療機関 ↘行政も必要。
4. 物資 (水・食料など) の支援体制。	支援物資届かず。 (民間病院・施設・在宅など)	行政主導で地域住民・地域事業所のネットワーク構築 (支給方法もふくめ)。
5. 国の復興政策 H23 年 11 月 21 日第三次補正予算成立。 H24 年 2 月 10 日復興庁発足。	復興のおくれ 予算 8 カ月以上の空白 } → 復興庁 11 カ月目の発足 } → [地域産業の衰退 人口流失	政治の強い指導力により、早期の方針と資金の注入。
6. 医療施設など災害復旧費補助金 民間病院 建物補助率 1/2 (機器は対象外)	公民格差顕著 民間医療機関の復旧のおくれ	大災害時には公的病院に近い補助を。(せめて救急指定 休日当番などをおこなっている医療機関)

に在宅などで生活された方に薬・支援物資が届くのが遅れた。(2)震災発生後、不安など心理的影響、身体的活動の低下によるものが多く長い期間発生した。(3)薬の不安、緊急時の連絡体制に関して医療機関に要望された。(4) 停電時の対応
①人工呼吸器・在宅酸素など停電時の電源の確保が必要 た
例えば、蓄電池内蔵型機器など。②中心静脈栄養・喀痰吸引な

ど、停電時の対応を常日頃指導しておく必要があることがわかった。

また、この度の東日本大震災を経験して、問題点とその対策について考えてみた (Table 1)。

※本論文に関連し、開示すべき COI 状態にある企業、組織、団体はいずれも有りません。

Abstract

The Great East Japan Earthquake: One year at a private hospital in Miyagi prefecture

Jinichi Saito
Saito Hospital

The Great East Japan Earthquake struck the areas off the Pacific coast of Tōhoku on March 11, 2011. The life-lines supplying the hospital were completely disrupted because of this earthquake. The tsunami then hit the area, causing devastating damage, and patients inundated the hospital. This study describes the disorders, conditions, and characteristics of these patients upon presentation at the private hospital. In addition, a survey was conducted in October 2011 regarding this disaster among outpatients who required long-term nursing care. The current situation was reviewed, and problems based upon hospital experiences were discussed. This review was intended to be helpful in the event of any future major disaster.

(Clin Neurol 2012;52:1343-1344)

Key words: The Great East Japan Earthquake, Private hospital
